

第11回 SG伝熱管ECT検討会 議事録

1. 開催日時 2026年9月9日(水) 9時30分～11時30分
2. 開催場所 (Web会議のみ)
3. 出席者(順不同、敬称省略)
出席委員：西田(三菱重工業)、磯見(日本原子力発電)、青木(北海道電力)、
手嶋(九州電力)、藤田(四国電力)、前田(原子力エンジニアリング)、
村田(関西電力)、矢藤(原子力エンジニアリング) (計8名)
代理出席者：(なし) (計0名)
欠席委員：浦田(三菱重工業)、高野(発電設備技術検査協会)、 (計2名)
オブザーバ：(なし) (計0名)
事務局：景浦(日本電気協会) (計1名)
4. 配付資料：
資料11-1: SG伝熱管ECT検討会 委員名簿
資料11-1-1: SG伝熱管ECT検討会 出欠予定表
資料11-2: 第10回 SG伝熱管ECT検討会議事録案
資料11-3: JEAG4208 改定スケジュール案
資料11-4: 第81回構造分科会 議事録(抜粋)
資料11-5: 2026年6月9日_技術評価会合メモ
資料11-6: 規格改定ニーズ調査表の集約結果
5. 議 事
事務局より、本会にて、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後、議事が進められた。
 - (1) 検討会主査および副主査について
本検討会は、前回開催以降に主査が検討会委員を退任されたことから、改めて検討会主査を互選する事となった。その結果、村田委員が新主査に、さらに新主査の指名により西田委員が引き続き副主査に就任する事になった。
 - (2) 代理出席者の承認、オブザーバ出席者等の確認、会議定足数、配付資料の確認について
確認時点で、委員総数10名に対して、代理出席者(0名)を含めた出席者は8名であり、分科会規約第13条(検討会)第15項に基づき、会議開催条件の「委員総数の2/3以上の出席(7名以上)」を満たしていることを確認した。また、事務局より配付資料の確認を実施した。
 - (3) 前回議事録の確認(審議)
事務局から、資料No.11-2に基づき、前回議事録案を紹介した。前回の検討会から年月を経ていることから、前回議事録案については、その当時に関係者にご確認を頂いているものとし、正式議事録とする事について承認を頂いた。
 - (4) JEAG4208 改定案の中間報告に向けた準備(審議)
新主査より、資料No.11-3～No.11-6に基づいて、JEAG4208の次回改定検討について説明があった。
主なご意見・コメントは下記のとおり。

○資料 No.11-3 JEAG4208 改定スケジュール案 質疑応答

- ・提示された方向性が妥当である。技術評価に関する検討会合においても、次回改定で性能規定化することを求められたものではないため、今後の課題とする方針が適切である。また、技術評価に向けた面談の際、NRA から、後継プローブが技術面および性能面でインテリジェントプローブと同等であることを示す資料について、可能な限り早期の提示を求める意見があった。当該資料の提示により技術評価が円滑に進むと考えられるため、検討会において対応を検討する必要がある。

→意見交換会における内容について承知した。

→本件は、正式な審議を待つのではなく、早期に情報を提供してほしいという趣旨であったと認識している。

→その認識で相違ない。当該コメントへの対応は資料に記載している。

→先方の要望は、資料への記載時期を待たず、NRA の担当者に対し、関連資料や論文等、後継プローブの同等性を明確に示す資料を早期に提示することであると認識している。提示資料は、保全学会誌へ投稿予定の論文でも差し支えない。

→承知した。その方針で、具体的な提示方法を検討する。

→提示された方針に賛成する。NRA からの要請に対応した内容であり、現実的な進め方でもあるため、提案どおりの方針が適切であると考ええる。

→説明内容に反対意見がなかったため、次期プローブの採用に関する追記については、JEAG4208 の追補版を発行する方針とする。また、JEAG4208 の性能規定化については今後の課題とし、次回の本格改定時に取り組む。資料 2 ページに示す方向性に基づき、今後のスケジュールを検討する。

- ・今後のスケジュールについて、本規格の性能規定化への着手を早める必要があること、また、中間報告において技術的内容の説明も必要であることを踏まえ、「中間報告」の時期を当初のスケジュールから 1 四半期（3 か月）前倒しすることを検討している。早期に追補版の原案を取りまとめ、11 月の構造分科会で中間報告を行う方針である。さらに、性能規定化に必要な作業の概要を参考として資料に記載している。主な作業は、プローブごとに異なる試験要領を包含する性能要求の策定、性能確認時に準備すべきエビデンスの検討、ならびに規格の本改定における最新知見の反映、JEAC4207、JEAG4217 等の類似規格との整合性の検討であり、現時点で想定される課題を列举している。

○資料 No.11-4 および No.11-5 について

資料 No.11-4 および No.11-5 は、過去の会議における発言内容を示す根拠資料として掲載しているため、本検討会では説明を省略する。

○資料 No.11-6 資料 11-6: 規格改定ニーズ調査表の集約結果 質疑応答

- ・表現に関して寄せられた意見については、追補版の作成時に、反映可能なものを反映する。具体例として、単位表記を SI 単位系に統一することなど、表現に関する意見が示されている。

→その主旨であれば、反映することが適切である。

・その他の意見がなかったことから、本日の審議を踏まえ、本件について追補版を発行する方針が決議された。本規格の性能規定化等の課題については、次回の本格改定時に資料を更新した上で、進め方および採否を改めて確認することとし、現時点では参考扱いとする。

(5) その他

- ・ 特になし。

以 上